

「伊仙中学校の伊仙町内文化財探訪の取組」

1 学校名

伊仙町立伊仙中学校

2 学年・人数

3年 32名

3 日時・場所

(1) 学習会等の日時・場所

令和元年9月27日(金) 伊仙町内

(2) 発表の日時・場所

令和元年11月1日(金) 伊仙中学校文化祭での展示による発表

4 活用に取り組んでいる史跡の名称・時代・特徴について

(1) 名称・時代

(おもなわかいづか面縄貝塚) 第1貝塚と第2貝塚とあって、第1貝塚では、弥生時代の埋葬人骨が出土している。

(トマチンいせき遺跡) 縄文時代晩期から弥生時代前期。上層からは墓、下層からは貝塚が発見されている。

(カムイヤキかまあと窯跡) 11世紀から14世紀頃に生産された焼き物の窯跡。

(メランジたいせきぶつ堆積物) 約1億年前の地層を、20～12万年前の琉球列島周辺の海で形成されたサンゴ礁が覆っているもので、恐竜時代のメランジ堆積物と隆起サンゴの重なりを地表で見ることができる。

(いぬたぶそうどうきねんひいせき犬田布騒動記念碑遺跡) 1864年の犬田布騒動の事実を記すために建てられた記念碑。

(2) 特徴

伊仙町内には、トマチン遺跡や面縄貝塚、犬田布貝塚といった縄文・弥生時代の遺跡から11世紀頃のカムイヤキ窯跡、幕末期の犬田布騒動記念碑等の歴史的な文化財や、メランジ堆積物のように地質学的にも大変貴重な文化財が数多く残されている。

これらは歴史的な興味をかきたて、自然の造形の妙を味わうことができる貴重なものだが、生徒たちの多くはその価値を知らないのが現状である。この文化財探訪は郷土への関心を高め、郷土を大切に作る心や態度を育むことをねらいとして、校外学習を一日行っているものである。

5 保存会や地域との連携の具体

町歴史民俗資料館の前館長や学芸員に同行していただき、それぞれの文化財の場所で説明をしていただいている。

6 活用の取組の工夫した点

見学場所について、資料を使って事前学習を行った。

7 取組の様子



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

- ・ 身近な場所に、このような遺跡があることを初めて知った。貴重な動植物や海の美しさなど、徳之島の自然は自慢できるものだと思っていたが、地層の成り立ちなどが珍しいということを知って、さらに誇りに思えるようになった。(生徒)
- ・ 面縄の貝塚で人骨を見たり、土地の形や風習でお墓が決まると初めて聞いたりして、とても勉強になった。火葬するのが当たり前だと思っていたので驚いた。(生徒)
- ・ 明眼の森には登ったことがなく、初めてだった。草木を持ち帰ってはいけないほど、規則が厳しいことに驚かされた。世界自然遺産登録に向けて、町民一人一人がもっと自覚を持たなければならないと感じた。(生徒)
- ・ 徳之島の歴史がとても意義深いことや、地質学上も貴重な場所であることを改めて知って、とても興味深かった。そして、生徒たちにとっては、身近でありながら新たな発見があり、郷土の素晴らしさを知るよい学習となった。
(教職員)